



本 庄 大 輔 さん (47)
こ ず え さん (47)
＝胆沢区小山字中沢＝

雨の日も晴れの日も

●どんなときも一緒に素敵な夫婦を紹介

こととして結婚21年目の本庄夫妻。水沢区内に土地家屋調査士の事務所を構えています。アルバイト先のスキー場で知り合った胆沢区出身の大輔さんと埼玉県出身のこずえさん。実は、こずえさんの家でいて、二人が出会う前から大輔さんはそこを訪れたことがありました。そのことで話が盛り上がったのが交際のきっかけだそうです。

もともと専業農家で、現在も6畝ほど米を作っている大輔さんですが、14年前に一念発起して土地家屋調査士の資格を取得しました。資格取得の際には「子供が小さくて大変なこともありました」とこずえさん。事務所の経理などで、今も支えてくれているこずえさんに「仕事をしてこられたのは妻のおかげです」と感謝する大輔さんです。

結婚当初は見知らぬ土地に寂しさを感じたというこずえさんですが「地元のイベントに外国からお客さんが来るんです」など、今では胆沢が好きで、誇りに思うそうです。2月13日に胆沢区で行われる「全日本農はだてのつどい」では、今年度厄年連の総代表を務める大輔さん。「1年の無事を願って、福俵を引き切りたい」と意気込みを語ると、こずえさんは「俵から落ちないよう気を付けてね」と気遣っていました。



佐藤 星 くん
(水沢区・姉体小学校6年)

Interview

夢トーク

将来の夢は「自衛隊」

——学校での役割は？

計画委員会の委員長です。学校行事のスローガンを決定したり、募金活動をしたりしています。文化祭では、学校に来てくれた人にも震災義援金募金に協力してもらいました。

——小学校生活の思い出は？

自然教室です。金ケ崎町の青少年の家で、野外炊飯などをしました。自分が飯ごうで炊いたご飯はおいしかったです。

——好きなスポーツは？

野球です。姉体スポーツ少年団に入っていて、ポジションは

ショートです。兄が2人いて、2人とも野球をやっていました。

——中学校へ進学したら、やってみたいことはありますか？

運動部に入りたいです。野球も好きだけど、他のスポーツにも興味があつて悩んでいます。バドミントンが気になります。

——将来の夢を教えてください。

自衛隊に入りたいです。一番上の兄が自衛隊に入っていて、憧れます。兄は戦車に憧れたそうですが、特に所属のこだわりはありません。国を守る仕事をしたいです。



中高生の部活動や委員会活動を紹介

青春讃歌

岩谷堂高等学校
鹿踊部

- ◎部員数 17人
- ◎顧問 木田 裕子 先生
陳ヶ岡 海 先生
高橋 恵喜 先生
- ◎部長 佐藤 奈緒 さん(2年)

江刺の文化を守り伝え 全国大会の舞台を目指す

江刺区を代表する郷土芸能である「鹿踊り」。その継承に取り組んでいるのが岩谷堂高校鹿踊部です。

4年前には部員が4人にまで減り、活動の危機にあった鹿踊部。危機を救ったのは今は引退した3年生9人でした。男子は1人だけで女子がほとんどだった3年生。その女子部員中心の踊りは、鹿踊りは男性が踊ると考えていた人に驚きを与えました。体験入学で鹿踊部の踊りを目にした佐藤部長も驚いた一人で「カッコいい。女の人でも踊れるんだ」と、入部のきっかけになったと語ります。憧れて入部する人は多く、今でも女子部員が大半を占めます。

10月の県高等学校総合文化祭は第3位と、全国大会に出場できる第2位までに一歩及ばなかった鹿踊部。次こそはと熱意に燃え、部員たちは踊りに取り

組んでいます。「みんな仲がよくにぎやかですが、練習が始まると気持ちを切り替え、踊りに向かいます」と部活動の様子を語る佐藤部長。互いにアドバイスし合う時間を設けるなど、練習に工夫を加えています。顧問の木田先生も「非常に踊りが好きな子たち。自分たちで指導し合いながら取り組んでいます」と温かく見守ります。

最後に佐藤部長は、「鹿踊りは魅力がたくさんある。その魅力を知ってほしいです」と来年度も多くの入部があることを願いました。



1月24日の水沢農業高校民族舞踊同好会卒業公演でも踊りを披露します

おうしゅう 羅針盤



穏やかな初春をご家族で迎えのこととお慶び申し上げます。

12月に姉妹都市北海道長沼町を開拓した吉川鉄之助を顕彰する市民劇「大地の侍 吉川鉄之助物語」を鑑賞しました。当日は長沼町の戸川町長と共に、未開の原生林を切り開いた鉄之助の「侍魂」に思いを馳せました。昨年は鉄之助が長沼初代戸長(村長)となつて120年目の記念すべき年でした。鉄之助の縁で結ばれた長沼町との絆がさらに深まり、次の世代へと引き継がれることを強く願います。

市のふるさと納税制度「奥州ふるさと応援寄附」の本年度の寄付額が、12月末時点で1億円の大台を突破し2億円に到達しました。寄付額は速報値で4734件、総額2億1306万円です。返礼品は

岩谷堂筆筒や南部鉄器など136品。寄付額の半額程度の品を選んでいただきます。中でも人気は市産米や前沢牛となっています。今後も継続的に返礼品や仕掛けを見直し、寄付者に奥州市の特産品を知っていただき、活性化につなげてまいります。

本年度の全国社会福祉協議会会長表彰を受賞された市社会福祉協議会の岩井会長と、全国民生児童委員協議会会長表彰を受賞された常盤地区民生児童委員協議会の千葉会長が市役所を訪れ、受賞の喜びを報告されました。両団体による地域の見守り活動などが高く評価されたもので、心から敬意を表します。少子高齢化が進み、地域福祉が果たす役割は年々高まっております。地域住民が住みよいまちづくりに、ますます取り組んでいただきたいと思います。

ことしの干支「申」には、病や厄が「去る」といういわれがあります。皆さまにとって良い年になることを切に願います。

奥州市長 小沢昌記